

平成30年度

# 学校評価アンケート資料

《教員・生徒・保護者》

大阪商業大学高等学校

平成30年度 『学校評価』 アンケート結果

(資料) 学校評価アンケート内容

※教員・生徒・保護者で表現が若干異なりますが(主語の違い)、内容は下記となります

1. 学校の雰囲気がよい ----- <高校生活全体>
2. あいさつに溢れる学校である ----- <高校生活全体>
3. 自分のクラスが楽しいと感じている ----- <高校生活全体>
4. コースの取り組みには満足している ----- <高校生活全体>
5. 多様な資格取得ができるのでよい ----- <高校生活全体>
6. 本校の教員は教育熱心である ----- <高校生活全体>
7. 授業がわかりやすいと感じている ----- <学習>
8. 授業を意欲的に取り組んでいる ----- <学習>
9. 授業・模擬試験が進路に対応している ----- <進路指導>
10. 進路に必要な情報は適切に提供されている ----- <進路指導>
11. 先生は悩みを親身になって聞いてくれている ----- <生活指導>
12. 生徒に対する学校の規則は妥当である ----- <生活指導>
13. 生徒は学校の規則を守っている ----- <生活指導>
14. 生徒は生活指導について納得している ----- <生活指導>
15. 授業のベル着は守っている ----- <生活指導>
16. 学校行事は楽しく充実している ----- <行事>
17. 部活動は活発で充実している ----- <行事>
18. 校内の施設設備はよく整備されている ----- <その他>
19. 入学してよかった ----- <その他>

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

1. 学校の雰囲気がよい					1. 学校の雰囲気がよい				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	25	<b>41</b>	22	12	保護者	29	<b>56</b>	12	3
第1学年	11	<b>57</b>	24	8	教員	17	<b>63</b>	17	3
第2学年	28	<b>41</b>	22	9	生徒(男)	27	<b>38</b>	21	14
第3学年	24	<b>35</b>	25	16	生徒(女)	21	<b>47</b>	23	9

2. あいさつに溢れる学校である					2. あいさつに溢れる学校である				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>35</b>	<b>39</b>	16	10	保護者	25	<b>50</b>	20	5
第1学年	18	<b>44</b>	30	8	教員	13	<b>48</b>	32	7
第2学年	<b>36</b>	<b>41</b>	16	7	生徒(男)	<b>37</b>	<b>38</b>	15	10
第3学年	<b>40</b>	<b>39</b>	13	8	生徒(女)	<b>32</b>	<b>40</b>	18	10

3. 自分のクラスが楽しいと感じている					3. (生徒は) 自分のクラスが楽しいと感じている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>47</b>	36	12	5	保護者	<b>36</b>	<b>44</b>	12	8
第1学年	<b>37</b>	<b>34</b>	20	9	教員	13	<b>74</b>	13	0
第2学年	<b>44</b>	<b>40</b>	12	4	生徒(男)	<b>47</b>	36	12	5
第3学年	<b>47</b>	36	11	6	生徒(女)	<b>47</b>	37	12	5

4. コースの取り組みには満足している					4. コースの取り組みには満足している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>38</b>	<b>40</b>	13	8	保護者	32	<b>52</b>	13	3
第1学年	26	<b>49</b>	19	6	教員	6	<b>45</b>	<b>43</b>	6
第2学年	<b>40</b>	<b>45</b>	11	4	生徒(男)	<b>38</b>	<b>40</b>	13	9
第3学年	<b>39</b>	<b>35</b>	14	12	生徒(女)	<b>39</b>	<b>42</b>	13	6

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

5. 多様な資格取得ができるのでよい					5. 多様な資格取得ができるのでよい				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	27	<b>46</b>	17	10	保護者	34	<b>48</b>	14	4
第1学年	22	<b>44</b>	28	6	教員	13	<b>53</b>	31	3
第2学年	28	<b>46</b>	16	10	生徒(男)	27	<b>44</b>	17	12
第3学年	28	<b>42</b>	18	12	生徒(女)	25	<b>51</b>	19	5

6. 本校の教員は教育熱心である					6. 本校の教員は教育熱心である				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	33	<b>43</b>	18	6	保護者	32	<b>52</b>	13	3
第1学年	25	<b>49</b>	20	6	教員	29	<b>52</b>	18	1
第2学年	30	<b>47</b>	18	5	生徒(男)	33	<b>43</b>	17	7
第3学年	28	<b>44</b>	19	9	生徒(女)	34	<b>43</b>	19	4

7. 授業がわかりやすいと感じている					7. 授業がわかりやすいと感じている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	21	<b>48</b>	21	10	保護者	16	<b>54</b>	24	6
第1学年	10	<b>57</b>	24	9	教員	15	<b>72</b>	13	0
第2学年	19	<b>53</b>	22	6	生徒(男)	22	<b>46</b>	21	11
第3学年	18	<b>48</b>	22	12	生徒(女)	16	<b>54</b>	22	8

8. 授業を意欲的に取り組んでいる					8. (生徒は) 授業を意欲的に取り組んでいる				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	27	<b>45</b>	20	7	保護者	24	<b>49</b>	21	6
第1学年	26	<b>45</b>	22	9	教員	0	36	<b>48</b>	16
第2学年	29	<b>45</b>	21	5	生徒(男)	27	<b>44</b>	21	8
第3学年	28	<b>44</b>	17	11	生徒(女)	28	<b>47</b>	19	6

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

9. 授業・模擬試験が進路に対応している					9. 授業・模擬試験が進路に対応している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	33	<b>43</b>	16	8	保護者	19	<b>59</b>	18	4
第1学年	17	<b>59</b>	22	2	教員	6	<b>47</b>	<b>39</b>	8
第2学年	28	<b>48</b>	19	5	生徒(男)	<b>35</b>	<b>42</b>	15	8
第3学年	29	<b>40</b>	18	13	生徒(女)	27	<b>47</b>	18	8

10. 進路に必要な情報は適切に提供されている					10. 進路に必要な情報は適切に提供されている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>36</b>	<b>43</b>	14	7	保護者	27	<b>53</b>	17	3
第1学年	26	<b>52</b>	18	4	教員	14	<b>57</b>	28	1
第2学年	38	<b>49</b>	11	2	生徒(男)	<b>39</b>	<b>42</b>	12	7
第3学年	<b>38</b>	<b>44</b>	12	6	生徒(女)	26	<b>46</b>	20	8

11. 先生は悩みを親身になって聞いてくれている					11. 先生は悩みを親身になって聞いてくれている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	29	<b>45</b>	19	7	保護者	30	<b>51</b>	15	4
第1学年	15	<b>43</b>	30	12	教員	22	<b>64</b>	14	0
第2学年	28	<b>46</b>	19	7	生徒(男)	30	<b>43</b>	19	8
第3学年	31	<b>42</b>	18	9	生徒(女)	26	<b>49</b>	19	6

12. 生徒に対する学校の規則は妥当である					12. 生徒に対する学校の規則は妥当である				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	28	<b>38</b>	22	12	保護者	39	<b>50</b>	8	3
第1学年	22	<b>37</b>	<b>28</b>	13	教員	28	<b>51</b>	18	3
第2学年	25	<b>41</b>	24	10	生徒(男)	<b>30</b>	<b>38</b>	20	12
第3学年	<b>27</b>	<b>38</b>	21	14	生徒(女)	22	<b>41</b>	26	11

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

13. 生徒は学校の規則を守っている					13. 生徒は学校の規則を守っている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>44</b>	<b>36</b>	13	7	保護者	<b>53</b>	41	5	1
第1学年	<b>42</b>	<b>49</b>	6	3	教員	1	<b>42</b>	<b>46</b>	11
第2学年	<b>54</b>	39	6	1	生徒(男)	<b>48</b>	33	12	7
第3学年	<b>58</b>	33	6	3	生徒(女)	34	<b>45</b>	14	7

14. 生徒は生活指導について納得している					14. 生徒は生活指導について納得している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	25	<b>37</b>	23	15	保護者	36	<b>50</b>	10	4
第1学年	24	<b>38</b>	24	14	教員	7	<b>52</b>	33	8
第2学年	23	<b>41</b>	22	14	生徒(男)	27	<b>39</b>	19	15
第3学年	23	<b>36</b>	23	18	生徒(女)	20	<b>34</b>	<b>32</b>	14

15. ベル着を守っている					15. ベル着を守っている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>46</b>	<b>38</b>	11	5	保護者	----	----	----	----
第1学年	<b>44</b>	<b>41</b>	13	2	教員	7	<b>52</b>	35	6
第2学年	<b>58</b>	33	7	2	生徒(男)	<b>49</b>	35	11	5
第3学年	<b>58</b>	31	6	5	生徒(女)	<b>40</b>	<b>46</b>	10	4

16. 学校行事は楽しく充実している					16. 学校行事は楽しく充実している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>31</b>	<b>37</b>	20	12	保護者	27	<b>46</b>	21	6
第1学年	24	<b>42</b>	24	10	教員	14	<b>54</b>	26	6
第2学年	28	<b>40</b>	20	12	生徒(男)	<b>31</b>	<b>36</b>	20	13
第3学年	<b>28</b>	<b>34</b>	23	15	生徒(女)	29	<b>40</b>	20	11

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

17. 部活動は活発で充実している					17. 部活動は活発で充実している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>35</b>	<b>36</b>	14	15	保護者	32	<b>46</b>	16	6
第1学年	<b>28</b>	<b>34</b>	21	17	教員	33	<b>50</b>	13	4
第2学年	<b>33</b>	<b>41</b>	12	14	生徒(男)	<b>36</b>	<b>34</b>	14	16
第3学年	<b>37</b>	<b>36</b>	15	12	生徒(女)	32	<b>43</b>	15	10

18. 校内の施設設備はよく整備されている					18. 校内の施設設備はよく整備されている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	17	<b>27</b>	<b>25</b>	<b>31</b>	保護者	21	<b>49</b>	21	9
第1学年	9	<b>38</b>	<b>32</b>	21	教員	6	22	<b>35</b>	<b>37</b>
第2学年	15	<b>29</b>	<b>31</b>	<b>25</b>	生徒(男)	17	<b>26</b>	24	<b>33</b>
第3学年	15	24	24	<b>37</b>	生徒(女)	16	<b>31</b>	<b>30</b>	<b>23</b>

19. 入学してよかった					19. (生徒は)入学して(させて)よかった				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	22	<b>39</b>	23	16	保護者	<b>40</b>	<b>46</b>	10	4
第1学年	22	<b>42</b>	23	13	教員	4	<b>71</b>	25	0
第2学年	23	<b>41</b>	21	15	生徒(男)	21	<b>39</b>	22	18
第3学年	21	<b>42</b>	19	18	生徒(女)	22	<b>44</b>	24	10

## 平成30年度 「学校評価」 アンケート結果 考察

### ○高校生活全般について○（Q1-6）

「学校の雰囲気について」の質問に対して、大人（保護者・教員）は約8割が肯定的な回答であるが、生徒の約3割以上が否定的な数値となっている。大人の視点と生徒の視点の違いが存在するかもしれない。どのような問題が否定的な回答をもたらしているのか、検証する必要がある。

「あいさつに溢れる学校」については、生徒からの肯定的意見は全体的に見て高いが、第1学年の数値は4割近くが否定的である。入学時より挨拶の大切さや挨拶行動の実践を行い、習慣化していくことが必要である。また教職員は否定的な数値が高い。生徒からの挨拶を一方的に待つのではなく、教職員からの挨拶励行を積極的に行っていくことが必要である。

学校生活の根幹となっている「クラス活動」については、概ね肯定的な回答が出されていることは評価できる。学年が進んでいくにつれて、肯定的な数値が増えていくことは評価に値する。クラス活動を豊かなものにするという生徒たちの考えと、学級担任の努力の結果と言える。

「コースの取り組み」について、生徒は概ね肯定的な回答であるが、教員は否定的な数値が高くなっている。ただ何となく、各コースで用意されたカリキュラムを消化していくのではなく、そのカリキュラムや、各コースの特長的なプログラムを通じて、自らの将来像、可能性を探求させることにより、双方の肯定的回答が増加するのではないかと思われる。

「資格取得の多様性」は生徒、保護者は肯定的な数値が出ているが、教員側の数値の否定色がやや強い。また1年生は検定受検機会が少ないので、否定的な回答が若干多めとなっている。各種検定への合格率の向上のみが、否定色の払拭につながる。資格取得をメインに掲げているグローバル商大コースの充実にも繋がる項目であるので、教科のみでなく、学校全体で考えていくことが急務である。また1年次から目標を設定し継続的にモチベーションを持たせることも必要である。「教員の教育熱心」についても概ね肯定的な回答が出ている。肯定的な数値が9割超となるよう、学校として努力を継続する必要がある。

### ○学習について○（Q7-8）

「授業のわかりやすさ」について、生徒の肯定的回答が約7割前後となっている。教員の肯定的回答が8割以上、保護者の7割と比べても若干の数値の乖離が見られる。授業が学習活動の根幹であるがゆえに、3割近くが否定的な数値であることは問題視する必要がある。生徒の9割以上が肯定的回答を目指すべく、改善のためにリサーチが必要である。公開授業を有効活用し、教授法を高めていくことは勿論のこと、教科内での勉強会など校内での授業充実の気運を高めていくことも必要である。また生徒参加型の授業形態を取り入れていくなど、工夫が望まれる。

「授業への意欲的な取り組み」は生徒・保護者と比較して、教員の意見が厳しいものとなっている。静かに授業を聞き、指示通りに授業を受けているのではなく、『主体的・対話的で深い学び』が行われているかが今後の基準となっていくと思われる。いずれにせよ生徒の授業に対するモチベーションの向上への仕掛けは教員の工夫が一番有効である。生徒たちが学習の楽しさ、知識をつけることの充実感など、生徒の気付きを教員側が行っていくことが必要である。

### ○進路指導について○（Q9-10）

「授業・模擬試験の進路への対応」について、生徒の回答は肯定的なものが中心ではあるが、否定的な回答も一定の割合を占めている。また教員の回答は否定的なものが多い。進路の可否だけでなく、真の学力をつけられたかどうか検証していく必要がある。そのために模試・学力テストなどのデータ分析、そしてそのデータの共有、改善策の検討、実施というサイクルが常に必要である。それらの作業が充実すれば、生徒・教員双方ともに肯定的回答が増加すると思われる。「進路情報の提供」については、進路指導部を中心に、進路ガイダンスや将来を考えさせる機会を提供しており、概ね肯定的な回答を得てい



る。また保護者対象の説明会などの機会も増えた。今後は進路やキャリアに関して生徒自ら探究するということが必要となってくる。

### ○生活指導について○（Q11-15）

「**教員は悩みを親身になって聞いてくれる**」は三者（生徒・保護者・教員）ともに肯定的回答が大部分を占めている。1年次はやや否定的回答が多いが、学年が上がるにつれて肯定的回答が増えている。学校方針でもある、日ごろのきめ細やかな教育活動の成果であると評価できる。「**学校の規則の妥当性**」については、生徒の否定的回答が4割前後となっている。ただ一方的教員から校則遵守を訴えるのではなく、なぜ校則が必要であるのか、生徒とともに考え、理解させていくことが校則遵守にも繋がっていくことになるだろう。「**生徒が規則を守っている**」は生徒の数値と教員の数値に大きな差が生じている。多くの生徒が校則を守っているが、一部の校則を守っていない生徒に対する指導に多くの労力を費やしていることも要因の1つである。「**生徒は生活指導に納得している**」に関しては、生徒は4割前後が否定的にとらえている。『指導する』側（教員）と『指導される』側（生徒）の立場の違いはあるが、その数値を近づけていくために、取り組みが必要である。「**ベル着を守っている**」について、生徒は概ね肯定的な回答であるが、その一方教員は否定的な回答がまだ多い。生徒は授業開始のベルが鳴った際には教室内にいることをベル着ととらえている傾向にあり、その反面教員はベルと同時に授業を開始するという意味でとらえているギャップがあると考えられる。生徒・教員ともに「50分間しっかり授業を行う（受ける）」「授業第一」の意識を共有することが基本である。

### ○高校生活全般・行事・その他について○（Q16-19）

「**学校行事**」「**部活動**」について、肯定的回答が多数を占めた。学校行事については、今後本校独特のものを確立しければ、さらに肯定的数値は上がるだろうし、帰属意識も高くなると思われる。有意義な高校生活を過ごしていくために大事な要素であるので、生徒自治会を中心に組み組んでいく。

「**校内施設設備**」については、否定的な回答が目立つ結果となった。中長期的な施設改善計画を立案していくが、現存の施設の有効的使用および生徒の美化意識向上に努めることが必要である。

「**入学して（させて）よかった**」については、概ね肯定的意見が多数を占めている。最終学年の第3学年の数値が向上するよう目指さなければならない。生徒、保護者の満足度が高まるポイントは何であるのか検証し、それに向けて実践していくことが必要である。また本校の募集活動にもリンクしていくことになるので、全教員で取り組んでいく。

### ★★まとめ★★

校内の雰囲気などの項目については、三者（保護者・教職員・生徒）ともに肯定的な傾向という共通性が見受けられるが、生活指導関連・学習関連については三者間で若干の傾向の違いが生じている。生徒・保護者の到達地点の設定よりも教職員の設定の方がより高いものに置きたいという気持ちの表れであると分析できる。苦労・努力だけで終わるのではなく、その先にある達成感、成長などを生徒たちが体感できるよう、文字通り三位一体となって取り組んでいくことで、自ずと満足度（肯定的回答）が増加すると思われる。

施設面については、継続的に改善のための検討を行っており、生徒たちの学校生活に彩りを飾れるよう努力を続けていく。

平成 31 年 3 月 9 日 (土)  
9 : 3 0 ~ 1 0 : 3 0  
議長 天野 隆夫  
書記 松田 周

# 大阪商業大学高等学校

## 平成 30 年度 学校評価委員会議録

### 1. 参加紹介

本校教職員：校長 好永 保宣 ・ 校長補佐 浅香 栄嗣  
教頭補佐 小守 良昌 ・ 事務長 入口 智  
学校評価委員 衣笠 和彦・天野 隆夫・高島 真史  
生徒自治会顧問 松田 周  
生徒自治会：副会長 中野 樹里 (2年) ・ 副会長 石岡 優人 (1年)  
近隣地域：御厨南自治会長 井形 繁明  
本校 P T A：会長 池田 宗治 ・ 副会長 大城 龍子 ・ 会計 貴島 詳子

### 2. 学校長挨拶

### 3. 「学校評価アンケート資料」の説明 (別紙参照)

教員・生徒・保護者アンケートを以下の観点でまとめた平成 30 年度「学校評価アンケート結果」について小守より説明があった。昨年度は否定的な意見が若干増加しているとの意見だったが、今年度は昨年度と比べて生徒・保護者の到達地点の設定と教職員の設定の方が高いものになっている違いはあるが肯定的な意見がみられた。

- ◆ 高校生活全体について (Q1-6)
- ◆ 学習について (Q7-8)
- ◆ 進路指導について (Q9-10)
- ◆ 生活指導について (Q11-15)
- ◆ 行事・その他について (Q16-19)
- ◆ まとめ

※説明の後、資料に関する質問は特になかった。

#### 4. 意見交換

参加者より、アンケート結果について・日頃感じていることなどを述べてもらった。

- 学習について

「多様な資格取得ができる」について、何か1つは取得できるように生徒に頑張ってもらいたい。その検定に向けて指導に力を入れて欲しいとの意見があった。

大学受験に向けても、検定を受験する意味を伝えて受験につなげてもらいたいとの意見も頂いた。

- 進路指導について

大学募集定員の厳格化により今年度は、どの試験においても難易度が上がっていることから受験の合格が難しくなっている。この状況は続く可能性があるとの意見があった。

指定校推薦については短大・専門学校の入試は推薦入試などで早期での合格を決めてしまい、指定校一覧を貼りだしても生徒は4年制大学だけをみるのがほとんどである。大学募集定員の厳格化により指定校推薦についても更なる競合が予想される。

- 生活指導について

SNSなどのスマートホンの取り扱いなどの情報教育をしてもらいたいとの意見があり、宿泊オリエなどで実施してはいるが問題が起こるのが現状であることから根気強く啓発・情報教育をすることが大事である。

規則の妥当性については、もっと厳しくしてもよいのではないかという意見があり、ただ教員が校則だからダメだと言っても反発する生徒もいるだろうが教員に粘り強く指導をお願いしたい。

- 行事・その他について

学校設備に否定的な評価になる中で部活動などでは一定の成果を出しているのは頼もしいものであり、もっと設備を良くなればさらに結果がよくなるのか楽しみであるとの意見を頂いた。